

令和6年度

授 業 計 画 書

学科・学年	柔道整復学科 3年	科目名	柔道整復学Ⅷ	授業時期	前期	授業時数	30
実務経験	整骨院での施術勤務歴15年	担当者	小川 勝	授業方法	実習	単位数	1
到達目標	各損傷における発生機序・症状・合併症・治療法・後遺症などがいえる。			評価方法			
授業概要	「上肢の損傷」の冊子に添い練習問題を交えて確認する。			期末試験 100% 小テストにて加減 (100点換算で60点以上で合格)			
教科書等	柔道整復学(理論編)	使用器材	プロジェクター				
週	授 業 項 目 ・ 内 容						実施結果
第1週	頭部・顔面の損傷:頭蓋骨骨折 顔面頭蓋骨折 顎関節脱臼 p152~166						
第2週	頭部顔面打撲 顎関節症 頸椎骨折 頸椎脱臼 p166~181						
第3週	頸部軟部組織損傷 p182~190						
第4週	胸部損傷:肋骨骨折 胸骨骨折 胸椎骨折 軟部組織損傷 脱臼p191~210						
第5週	腰椎骨折 脱臼 軟部組織損傷p210~219						
第6週	上肢の損傷 鎖骨骨折・脱臼 肩甲骨骨折 p220~232						
第7週	上腕骨近位部骨折 肩関節脱臼 症状・合併症・治療法 p233~245						
第8週	肩関節上腕の軟部組織損傷 上腕骨骨折p245~262						
第9週	肘関節部の損傷 顆上・外顆・内側上顆・橈骨頭・肘頭 p263~278						
第10週	肘関節脱臼・肘関節部軟部組織損傷p279~288						
第11週	前腕部の損傷 前腕骨骨折・ p289~299						
第12週	前腕部軟部組織損傷 神経損傷p299~304						
第13週	手関節部の損傷 橈骨下端部骨折・p304~313						
第14週	手根部の骨折・脱臼p313~324						
第15週	手部・指部の損傷 骨折・脱臼 軟部組織損傷p324~p350						
授業外 学習指示等							

授 業 計 画 書

学科・学年	柔道整復学科 3年	科目名	柔道整復実技Ⅷ	授業時期	前期	授業時数	30
実務経験	整骨院での施術勤務歴15年	担当者	小川 勝	授業方法	実習	単位数	1
到達目標	柔道整復師として臨床現場で必要とされる、診察、整復、固定が行えるようになることと、他の疾患と鑑別を的確に判断できるようになること。			評価方法			
授業概要	術者、患者モデル、助手役を設定し問診、視診、触診及び徒手検査、整復法、固定法のロールプレイングを行う。			実技試験50%、期末試験50% (100点換算で60点以上で合格)			
教科書等	柔道整復学 実技編	使用器材	整復・固定・検査に必要な各種用具				
週	授 業 項 目 ・ 内 容						実施結果
第1週	7定型的鎖骨骨折の診察および整復・8定型的鎖骨骨折の固定・						
第2週	9上腕骨外科頸外転型骨折の診察および整復						
第3週	10上腕骨骨幹部三角筋付着部より遠位骨折の固定・11コーレス骨折の診察および整復						
第4週	12コーレス骨折の固定						
第5週	13第5中手骨頸部骨折の固定・14肋骨骨折の固定						
第6週	15肩鎖関節上方脱臼の診察および整復						
第7週	16肩鎖関節上方脱臼の固定・17肩関節烏口下脱臼の診察および整復						
第8週	18肩関節烏口下脱臼の固定						
第9週	19肘関節後方脱臼の診察および整復・20肘関節後方脱臼の固定						
第10週	21肘内障の診察および整復						
第11週	22示指PIP関節背側脱臼の固定・23肩腱板損傷の診察および整復						
第12週	24上腕二頭筋長頭腱の診察						
第13週	25-1大腿(大腿四頭筋)部打撲の診察						
第14週	25-2大腿(大腿四頭筋)部肉ばなれの診察						
第15週	25-3ハムストリングス損傷(肉ばなれ)の診察						
授業外 学習指示等	復習は、特にその日の授業の重要事項をその日に振り返ること						

授 業 計 画 書

学科・学年	柔道整復学科 3年	科目名	柔道整復学総合Ⅲ	授業時期	前期	授業時数	30
実務経験	整骨院での施術勤務歴15年	担当者	小川 勝	授業方法	座学	単位数	2
到達目標	①臨床実地問題におけるキーワードから、疾患を適切に判断することができる。 ②図および写真から、疾患を適切に判断することができる。			評価方法 期末試験100% (100点換算で60点以上で合格)			
授業概要	柔道整復(①総論、②骨折、③脱臼、④軟部組織損傷)に関する理解を総合的に行うために、これまで学習した内容に関する種々の問題を解くことを通して、専門職としての基礎知識を整理し、理解を深化させることを目的とします。						
教科書等	「柔道整復学 理論編」(南江堂) 「柔道整復学 実技編」(南江堂)	使用器材					
週	授 業 項 目 ・ 内 容						実施結果
第1週	問題演習を通しての、各疾患の症状・治療法などの知識の整理①						
第2週	問題演習を通しての、各疾患の症状・治療法などの知識の整理②						
第3週	問題演習を通しての、各疾患の症状・治療法などの知識の整理③						
第4週	問題演習を通しての、各疾患の症状・治療法などの知識の整理④						
第5週	問題演習を通しての、各疾患の症状・治療法などの知識の整理⑤						
第6週	問題演習を通しての、各疾患の症状・治療法などの知識の整理⑥						
第7週	問題演習を通しての、各疾患の症状・治療法などの知識の整理⑦						
第8週	問題演習を通しての、各疾患の症状・治療法などの知識の整理⑧						
第9週	問題演習を通しての、各疾患の症状・治療法などの知識の整理⑨						
第10週	問題演習を通しての、各疾患の症状・治療法などの知識の整理⑩						
第11週	問題演習を通しての、各疾患の症状・治療法などの知識の整理⑪						
第12週	問題演習を通しての、各疾患の症状・治療法などの知識の整理⑫						
第13週	問題演習を通しての、各疾患の症状・治療法などの知識の整理⑬						
第14週	問題演習を通しての、各疾患の症状・治療法などの知識の整理⑭						
第15週	まとめ						
授業外 学習指示等	復習は、特にその日の授業の重要事項をその日に振り返ること						

授業計画書

学科・学年	柔道整復学科 3年	科目名	保健科学 I	授業時期	前期	授業時数	30
実務経験	整骨院での施術勤務歴19年	担当者	片岡 絹子	授業方法	講義	単位数	2
到達目標	1.臨床における柔道整復術の診断、処置について理解できる 2.解剖学・生理学の観点から身体の構造を理解できる 3.解剖学・生理学の観点から身体の構造について説明できる			評価方法			
授業概要	臨床現場での診断、処置について解剖学・生理学の観点から身体の構造を学習する。			期末試験 90% 小テスト 10% (100点換算で60点以上で合格)			
教科書等	柔道整復学(理論編・実技編)生理学	使用器材	OHP、液晶プロジェクター				
週	授業項目・内容						実施結果
第1週	臨床における柔道整復術に関わる解剖・生理(人体を構成する要素)						
第2週	臨床における柔道整復術に関わる解剖・生理(血液の役割・免疫機能)						
第3週	臨床における柔道整復術に関わる解剖・生理(心臓・リンパの流れについて)						
第4週	臨床における柔道整復術に関わる解剖・生理(呼吸筋が与える影響について)						
第5週	臨床における柔道整復術に関わる解剖・生理(消化と吸収について)						
第6週	臨床における柔道整復術に関わる解剖・生理(栄養と代謝)						
第7週	臨床における柔道整復術に関わる解剖・生理(体温調節について)						
第8週	臨床における柔道整復術に関わる解剖・生理(腎臓の機能について)						
第9週	臨床における柔道整復術に関わる解剖・生理(内分泌系の機能 その1)						
第10週	臨床における柔道整復術に関わる解剖・生理(内分泌系の機能 その2)						
第11週	臨床における柔道整復術に関わる解剖・生理(骨の構造)						
第12週	臨床における柔道整復術に関わる解剖・生理(体液について)						
第13週	臨床における柔道整復術に関わる解剖・生理(神経機能について その1)						
第14週	臨床における柔道整復術に関わる解剖・生理(神経機能について その2)						
第15週	まとめ						
授業外学習指示等	前回学習した範囲の復習テストを毎回行い、自宅学習させる						

授 業 計 画 書

学科・学年	柔道整復学科 3年	科目名	外傷保存療法の経過・治癒の判定	授業時期	前期	授業時数	30
実務経験	整骨院を経営し施術業務従事中	担当者	山崎和弘	授業方法	講義	単位数	2
到達目標	外傷について理解し、各部位の骨折、脱臼、捻挫及び筋腱等軟部組織の損傷の経過及び治癒の判定を学び、柔道整復師として患者の肉体的な苦痛を取り去り、患部の回復を図り、早期に社会復帰させる事を学び、理解させることを到達目標とする。			評価方法 期末試験 100% (100点換算で60点以上で合格)			
授業概要	各部位の外傷、保存療法の経過をプロジェクター、PCを使い説明し、解説を加え個人とグループ実技を行う。						
教科書等	柔道整復学・理論編、実技編	使用器材	プロジェクター、PC				
週	授 業 項 目 ・ 内 容						実施結果
第1週	頸部外傷保存療法の経過・治癒の判定						
第2週	肩関節部外傷保存療法の経過・治癒の判定						
第3週	肘関節部外傷保存療法の経過・治癒の判定						
第4週	手関節部外傷保存療法の経過・治癒の判定						
第5週	指関節部外傷保存療法の経過・治癒の判定						
第6週	腰部外傷保存療法の経過・治癒の判定						
第7週	股関節部外傷保存療法の経過・治癒の判定						
第8週	膝関節部外傷保存療法の経過・治癒の判定						
第9週	足関節部外傷保存療法の経過・治癒の判定						
第10週	顎関節部外傷保存療法の経過・治癒の判定						
第11週	鎖骨部外傷保存療法の経過・治癒の判定						
第12週	上腕部、前腕部外傷保存療法の経過・治癒の判定						
第13週	大腿部、下腿部外傷保存療法の経過・治癒の判定						
第14週	その他部位の外傷保存療法の経過・治癒の判定						
第15週	まとめ						
授業外 学習指示等	・講義前には教科書の予習を行い、疑問点は質問の準備をすること。 ・復習においては、授業の重要事項のおさらいをして下さい。						

授 業 計 画 書

学科・学年	柔道整復学科 3年	科目名	柔道	授業時期	前期	授業時数	30
実務経験	講道館柔道5段保有	担当者	山崎 和弘	授業方法	実習	単位数	1
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・柔道について ・嘉納師範について 卒業認定試験のための基礎的知識と技術習得			評価方法			
授業概要	実践的練習と卒業認定試験のための指導。			期末試験 100% (100点換算で60点以上で合格)			
教科書等	柔道の授業づくり(体育シリーズ)	使用器材	OHP				
週	授 業 項 目 ・ 内 容						実施結果
第1週	移動打込	毎回打ち込み					
第2週	約束練習	毎回約束乱取					
第3週	かかり練習						
第4週	自由練習						
第5週	技の発展、技の系統性						
第6週	回し系の技の練習						
第7週	得意技を作る						
第8週	試合の方法						
第9週	講道館ルール						
第10週	国際ルール						
第11週	卒業認定試験の為の礼法 ①柔道精神の修得と知識						
第12週	卒業認定試験の為の礼法 ②技の理論・姿勢						
第13週	卒業認定試験の為の受け身 ①足回しの使い方						
第14週	卒業認定試験の為の受け身 ②口頭試問の練習						
第15週	まとめ						
授業外 学習指示等	怪我には特に注意し、自分に合った練習量で徐々に習得してもらいたい。						

令和6年度

授 業 計 画 書

学科・学年	柔道整復学科 3年	科目名	柔道整復実技V	授業時期	前期	授業時数	30
実務経験	整骨院を経営し施術業務従事中	担当者	山崎和弘	授業方法	実習	単位数	1
到達目標	・柔道整復実技と柔道との繋がりを学び理解させる。			評価方法			
授業概要	柔道を通して柔道整復学実技を指導する。			期末試験 100% (100点換算で60点以上で合格)			
教科書等	柔道整復学(理論編・実技編)	使用器材	OHP				
週	授 業 項 目 ・ 内 容						実施結果
第1週	柔道とは何か。歴史及び概要						
第2週	柔道とは何か。歴史及び概要						
第3週	殺法と活法 (蘇生法)						
第4週	柔道心得と外傷、損傷						
第5週	人体に加わる力 背負投の場合						
第6週	人体に加わる力 体落の場合						
第7週	人体に加わる力 大内刈の場合						
第8週	人体に加わる力 大腰の場合						
第9週	人体に加わる力 大外刈の場合						
第10週	人体に加わる力 小外刈の場合						
第11週	人体に加わる力 出足払の場合						
第12週	人体に加わる力 釣込腰の場合						
第13週	人体に加わる力 払腰の場合						
第14週	人体に加わる力 送足払の場合						
第15週	まとめ						
授業外 学習指示等	柔道の技を覚えるため、反復練習に専念し、力の入り方を学んで欲しい。						

令和6年度

授業計画書

学科・学年	柔道整復学科 3年	科目名	リハビリテーション医学	授業時期	前期	授業時数	30
実務経験	病院・診療所勤務歴12年	担当者	大田尾 浩	授業方法	講義	単位数	1
到達目標	1 リハビリテーションの概念を説明できる。 2 各種疾患における障害の分類を理解できる。 3 各種疾患のリハビリテーションの内容を述べるこおtができる。			評価方法			
授業概要	リハビリテーション医学について、柔道整復との関連において、その概念を解剖、生理、運動学と関連させて学ぶ。リハビリテーションを必要とする代表的な疾患について概略を学ぶ。			期末試験 100% (100点換算で60点以上で合格)			
教科書等	リハビリテーション医学、配布資料	使用器材	PC プロジェクター				
週	授業項目・内容						実施結果
第1週	オリエンテーション						
第2週	リハビリテーションの理念 (P1~8)						
第3週	リハビリテーションの対象と障害者の実態 (P9~13)						
第4週	障害の階層とアプローチ (P19~30)						
第5週	リハビリテーション評価学_運動学と機能解剖/小児の運動発達/ADL (P31~41)						
第6週	リハビリテーション評価学_心理/認知症/電気生理学的検査/画像/運動失調 (P42~54)						
第7週	リハビリテーションの障害学と治療学_障害学 (P57~66)						
第8週	リハビリテーションの障害学と治療学_高次脳機能障害/障害特性 (P67~72)						
第9週	リハビリテーションの障害学と治療学__廃用症候群/関節拘縮 (P73~84)						
第10週	リハビリテーションの障害学と治療学_リンパ浮腫/筋力強化/中枢性麻痺 (P85~95)						
第11週	リハビリテーションの障害学と治療学_疼痛/歩行練習/リスク管理 (P96~108)						
第12週	リハビリテーション医学の関連職種 (P109~116))						
第13週	リハビリテーション治療技術_理学療法 (P119~1134)						
第14週	リハビリテーション治療技術_作業療法/言語療法 (P129~137)						
第15週	まとめ						
授業外 学習指示等	1 指定した教科書を受講前に読んでおくこと。 2 講義時に配布するプリントを用いて復習すること。						

令和6年度

授 業 計 画 書

学科・学年	柔道整復学科 3年	科目名	競技者・高齢期の生理学的特徴・変化	授業時期	前期	授業時数	30
実務経験		担当者	脇田 真仁	授業方法	講義	単位数	2
到達目標	・講義内容(生理学の基礎、血液の生理学、体液の生理学、循環の生理学、呼吸の生理学)の理解。 ・講義毎の小テストをすべて解けるようにし、着実に国家試験に備える。			評価方法			
授業概要	人体の生理機能を明らかにし、その機能がどのような機序で現れるかを理解し、柔道整復師として必要な生理学の基礎知識の修得を目指す。			期末試験 100% (100点換算で60点以上で合格)			
教科書等	生理学	使用器材	パソコン、液晶プロジェクター				
週	授 業 項 目 ・ 内 容						実施結果
第1週	第1章 高齢者の生理学的特徴・変化 A:細胞、組織の加齢現象 B:高齢者の生理的特徴(感覚系の変化まで) 血液の生理学 まとめ演習1						
第2週	第1章 高齢者の生理学的特徴・変化 B:高齢者の生理的特徴 血液の生理学 まとめ演習2						
第3週	第1章 高齢者の生理学的特徴・変化 C:運動と加齢 循環の生理学 まとめ演習1						
第4週	第2章 競技者の生理学的特徴・変化 A:運動と身体発達 1.小児期から青年期の発育特性 2.骨・筋肉系の発育と運動 循環の生理学 まとめ演習2						
第5週	第2章 競技者の生理学的特徴・変化 3.呼吸循環系の機能と運動 4.発育期の運動不足・過運動の影響 5.運動の習熟 循環の生理学 まとめ演習3						
第6週	第2章 競技者の生理学的特徴・変化 B:競技者の生理的特徴 呼吸の生理学 まとめ演習1						
第7週	呼吸の生理学 まとめ演習2, 3						
第8週	内分泌の生理学 まとめ演習1, 2						
第9週	内分泌の生理学 まとめ演習3 神経の基本的機能 まとめ演習1, 2						
第10週	神経系の機能 まとめ演習1, 2						
第11週	神経系の機能 まとめ演習3-1						
第12週	神経系の機能 まとめ演習4 骨の生理学 まとめ演習1						
第13週	骨の生理学 まとめ演習2 筋肉の機能 まとめ演習1						
第14週	筋肉の機能 まとめ演習2, 3						
第15週	まとめ						
授業外 学習指示等	授業を受ける前の予習として、教科書を熟読しておく。 毎回の講義で配布する小テストの問題はすべて解けるように復習する。						

授 業 計 画 書

学科・学年	柔道整復学科 3年	科目名	整形外科Ⅱ	授業時期	前期	授業時数	30
実務経験	医師として勤務36年	担当者	都築 克幸	授業方法	講義	単位数	1
到達目標	1 整形外科を学ぶに当たっての基礎知識を習得する 2 骨及び周囲組織の基礎解剖の確認 3 基本的な治療、検査法を理解する 4 外傷についての基礎知識を身につける			評価方法			
授業概要	整形外科は運動器の医学であり、取り扱う部位は脊柱・骨盤・四肢である。運動療法を行う上で、必要な整形外科の知識と理解の再確認を行う。			期末試験 100% (100点換算で60点以上で合格)			
教科書等	整形外科学	使用器材					
週	授 業 項 目 ・ 内 容						実施結果
第1週	骨 基本知識 働き、構造、代謝等						
第2週	関節、筋及び靭帯 基礎解剖 役割等						
第3週	整形外科的診察法 基本的診察法 他覚的症候の評価等						
第4週	検査法 ① X線撮影 CT MRI 関節造影等						
第5週	検査法 ② 骨密度 電気生理学的検査 関節鏡検査等						
第6週	整形外科的治療法 ① 保存療法 ギプス 牽引療法等						
第7週	整形外科的治療法 ② 観血的治療法						
第8週	骨折総論 ① 定義 合併症 治療法 等						
第9週	骨折総論 ② 小児骨折の特徴 開放骨折						
第10週	骨折総論 ③ 疲労骨折 病的骨折 偽関節 等						
第11週	関節の損傷 捻挫 脱臼 等						
第12週	スポーツ整形外科総論						
第13週	リハビリ総論						
第14週	まとめ						
第15週	まとめ						

令和6年度

授 業 計 画 書

学科・学年	柔道整復学科 3年	科目名	柔道整復術の適応	授業時期	前期	授業時数	30
実務経験	医師として勤務36年	担当者	都築 克幸	授業方法	講義	単位数	2
到達目標	① 疼痛などの症状に対し、その鑑別疾患を把握する ② 骨折や脱臼等の種々の外傷に伴う合併症を学ぶ ③ 適切な対処法を理解し身につける			評価方法			
授業概要	柔道整復師が関わる可能性のある疾患について、正しい知識を身につけることによりその疾患の持つ危険性や合併症を理解する			期末試験 100% (100点換算で60点以上で合格)			
教科書等	医療の中の柔道整復	使用器材					
週	授 業 項 目 ・ 内 容						実施結果
第1週	柔道整復術の適否 内臓疾患を疑う疼痛						
第2週	腰痛をきたす疾患						
第3週	化膿性疾患 関節障害を起こす疾患						
第4週	血流障害、末梢神経損傷を伴う損傷						
第5週	脱臼骨折に伴う障害						
第6週	外出血を伴う損傷 病的骨折及び脱臼						
第7週	意識障害を伴う損傷①						
第8週	意識障害を伴う損傷①						
第9週	脊髄症状のある損傷						
第10週	呼吸運動障害を伴う損傷						
第11週	内臓損傷を疑う損傷						
第12週	高エネルギー外傷						
第13週	まとめ1						
第14週	まとめ2						
第15週	総合まとめ						
授業外 学習指示等	復習は、その日の重要事項をその日の内に振り返ること						

授業計画書

学科・学年	柔道整復学科 3年	科目名	一般臨床医学Ⅱ	授業時期	前期	授業時数	30
実務経験	医師として勤務38年	担当者	待鳥 浩信	授業方法	講義	単位数	1
到達目標	2年時に学習した「一般臨床医学Ⅰ」を踏まえて、さらに疾患に関する知識を深め、以下の項目を到達目標とする。 ①診察の基本を実施できる。 ②内科疾患を中心とした疾患の概念を説明できる。			評価方法			
授業概要	内科学一般・内科診断学を通じて、内科的疾患とその診察法について学ぶ。			期末試験 100% (100点換算で60点以上で合格)			
教科書等	一般臨床内科・配布資料	使用器材	PC (PCプロジェクター)				
週	授業項目・内容						実施結果
第1週	感染症①						
第2週	感染症②						
第3週	感染症③						
第4週	呼吸器疾患①						
第5週	呼吸器疾患②						
第6週	呼吸器疾患③						
第7週	循環器疾患①						
第8週	循環器疾患②						
第9週	循環器疾患③						
第10週	代謝疾患①						
第11週	代謝疾患②						
第12週	代謝疾患③						
第13週	内分泌疾患①						
第14週	内分泌疾患②						
第15週	まとめ						
授業外 学習指示等	1 講義に臨む前に教科書の該当箇所を読んでおくこと。 2 復習は、特にその日の授業の重要事項をその日の内に振り返ること。						

令和6年度

授 業 計 画 書

学科・学年	柔道整復学科 3年	科目名	外科学概論	授業時期	前期	授業時数	30
実務経験	医師勤務13年、薬学部准教授等8年	担当者	小山 進	授業方法	講義	単位数	1
到達目標	外科で扱う疾患、手術の概要と術前・術後の管理に関する基本的知識を習得する。			評価方法			
授業概要	外科学概論では、柔道整復師に必要とされる臨床医学的基礎知識のうち、特に外科学一般の基礎となる総論的な知識の周知徹底を図る。			期末試験 100% (100点換算で60点以上で合格)			
教科書等	外科学概論(柔整)	使用器材	講義用プリント、液晶プロジェクター				
週	授 業 項 目 ・ 内 容						実施結果
第1週	「ショック・心肺蘇生」 バイタルサインの見方を基礎として急性期の患者管理を学ぶ						
第2週	「意識障害」 意識障害を来たす疾患と急性期の処置に関して学ぶ						
第3週	「脳卒中」 脳卒中の分類、病態、症状と急性期の治療に関して学ぶ						
第4週	「胸部外傷(1)」 胸部の解剖と外傷による病態に関して学ぶ						
第5週	「胸部外傷(2)」 胸部外傷による病態に対する急性期の処置に関して学ぶ						
第6週	「頭部外傷(1)」 頭部の解剖と外傷による病態に関して学ぶ						
第7週	「頭部外傷(2)」 頭部外傷による病態に対する急性期の処置に関して学ぶ						
第8週	「出血と止血」 出血の病態と止血法に関して学ぶ						
第9週	「急性腹症」 急性腹症を来たす疾患と急性期の処置に関して学ぶ						
第10週	「輸血と輸液」 血液の生理、血液型の検査、輸血・輸液法に関して学ぶ						
第11週	「消毒と滅菌」 滅菌法、消毒薬の分類とその使用に関して学ぶ						
第12週	「手術」 術式や手術器具の種類とその使用法に関して学ぶ						
第13週	「麻酔」 麻酔薬の種類と麻酔法に関して学ぶ						
第14週	「外科的感染症」 外科領域で問題となる病原微生物とその病態に関して学ぶ						
第15週	まとめ						
授業外学習指示等	指定された教科書を通読し予習をし、その日の授業後に講義用プリントを読んで復習する。						

授 業 計 画 書

学科・学年	柔道整復学科 3年	科目名	臨床実習	授業時期	前期	授業時数	45
実務経験	整骨院で約15年の施術業務経験	担当者	小川 勝	授業方法	実習	単位数	1
到達目標	柔道整復師としての臨床における実践的能力及び保険の仕組みに関する知識を習得し、患者との適切な対応を学ぶ。また、施術者としての責任と自覚を学ぶ。			評価方法 実習時評価25% レポート25% 実習課題(カルテ・デイリーノート・症例報告)50% (100点換算で60点以上で合格)			
授業概要	臨床実習にて医の倫理、態度など柔道整復師としてのあり方や急性症状に対する施術の基礎を身につける。社会保障の仕組みを理解し、受領委任や償還払いの違いや柔道整復師法、健康保険取り扱いに関する関連規定を学ぶ。また、臨床現場で遭遇しやすい疾患の診断法及び施術法を習得する。						
教科書等	「柔道整復学 理論編」(南江堂) 「柔道整復学 実技編」(南江堂)	使用器材					
週	授 業 項 目 ・ 内 容						実施結果
①第1週	①柔道整復師の業務 ②医療機関、接骨院の業務前準備 ③予診の取り方および実務補助 ④外傷のとらえ方 ⑤物理療法器械説明 ⑥物理療法体験および実務補助 ⑦運動療法体験および実務補助 ⑧運動療法の実際 ⑨接骨院業務の実際 ⑩接骨院終了業務、カルテ整理						
①第2週							
①第3週							
①第4週							
①第5週							
①第6週							
授業外学習指示等	基本的な知識や技術は、自分で繰り返し反復練習すること						